

第33回 全国キリスト教学校人権教育セミナー

いのち・平和・人権

～小さな声をききとり、ネットワークでつながろう～

2023年 8月16日（水）～18日（金）

青山学院短大礼拝堂（17日）

日本キリスト教会館（18日）



主催

第33回全国キリスト教学校人権教育セミナー実行委員会

（メールアドレス zenkirisemi@gmail.com）

全国キリスト教学校人権教育研究協議会

（ホームページ <http://zenkiri.junyx.net>）

【開催の目的】

- ①コロナ危機の中で明確になってきた人権教育の課題について学び、理解を深めると共に、それぞれの現場での取り組みについて考える。また情報交換し、励まし合う。
- ②キリスト教学校および公私立学校で人権教育に関心を持っている教職員、また人権教育に関心を寄せるキリスト者・市民・保護者・学生の出会いの場をもつ。
- ③人権教育の実践に学び合い、分かち合い、建設的な関係を築く。
- ④キリスト教学校での人権教育のあり方を探求し、人権教育の広がりを創る。

いのち・平和・人権

～小さな声をききとり、ネットワークでつながろう～

パンデミック以後、抑圧下にある人や困窮に追いやられた人たちがますます見えなくされたと叫ばれ続けてきました。今一度、わたしたちは「いのち」「平和」「人権」という基本に立ち返り、小さな声やその存在に心を傾けたいと思います。一人では見えること、感じること、出来ることに限界がありますが、一人一人が繋がり合うことで、より多くの人が安心できる大きなネットワークを一緒に創っていきましょう。

■日程：2023年 8月16日(水) *フィールドワーク
8月17日(木) 9:00 ~ 18日(金) 15:30

■会場：

- ・16日=フィールドワーク(コースA~Eのプログラム毎に会場、集合場所・時間が異なります。)
- ・17日=【青山学院短期大学礼拝堂】(東京都渋谷区渋谷4-4-25)
 - *地下鉄(銀座線/千代田線/半蔵門線)「表参道」駅B1出口より約500m
 - *JR山手線「渋谷」駅東口より約1km
- ・18日=【日本キリスト教会館】(東京都新宿区西早稲田2-3-18)
 - *東京メトロ/東西線早稲田駅出口2または3Bより約500m
 - *東京メトロ/副都心線西早稲田駅出口1または2より約900m
 - *JR山手線/西武新宿線高田馬場駅より都バス「早大正門」行き「西早稲田」下車約300m

●参加費：事前振込をお願いします。

- ・出張参加15,000円 / ・自費参加13,000円 / ・学生3,000円
- ・オンライン参加8,000円(学生は3,000円)

*参加費用は、締め切り日(7月18日)までにお振込みください。

*参加費にはセミナー諸費用、ニュース購読・協議会運営協力費が含まれます。

*16日のフィールドワーク(A~E)に参加ご希望の方は、現地で参加費を頂きます。
またコースによって別途交通費・昼食費が必要な場合があります。

●申込み・振込締切：7月18日(火)までに、申込み専用サイトよりお申し込みください。

*締め切り日を過ぎたお申し込みは受け付けできません。

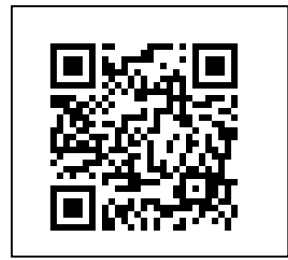
*オンライン参加を申し込まれた方には、1週間前までに郵便でハンドブック(資料)と案内を郵送します。申込書には8月(夏休み中)に郵便物を受け取れる住所を併せてご記入ください。

*16日のフィールドワーク、および18日の分科会では、参加人数を調整する場合があります。お申し込み時にそれぞれ第二希望までご記入ください。

●申込み専用サイト：【 <https://forms.gle/pTQgJoDHfrW7TViy7> 】

*当協議会ホームページ【 <http://zenkiri.junyx.net> 】からもアクセスできます（全キリで検索）。また、QRコードを読み取ったのアクセスもできます。

*パソコンやスマホを使用しない方は、電話 03-3203-0731（NCC 教育部）にご相談ください。



●参加費振込先：【 郵便振替口座 00180-3-731838 加入者名 人権教育セミナー実行委員会 】

*「2023 セミナー参加費」と記入してください。

●宿泊：各自でご予約ください。

●お問い合わせ：メールでお願いします。【 zenkirisemi@gmail.com 】

●主 催：第 33 回全国キリスト教学校人権教育セミナー実行委員会
全国キリスト教学校人権教育研究協議会

●後 援：日本カトリック学校教育委員会／キリスト教学校教育同盟／全国在日外国人教育研究協議会／日本カトリック学校連合会／日本キリスト教協議会（NCC）教育部

●賛 同：外国人住民基本法の制定を求める全国キリスト教連絡協議会／日本カトリック正義と平和協議会／日本カトリック部落差別人権委員会／在日韓国人問題研究所／在日大韓基督教会社会委員会／マイノリティ宣教センター／日本キリスト教協議会（NCC）／日本キリスト教協議会在日外国人の人権委員会／日本基督教団在日韓国・朝鮮人連帯特設委員会／日本キリスト教協議会部落差別問題委員会／日本基督教団部落解放センター／日本キリスト教婦人矯風会平和部門／日本聖公会人権問題担当者／日本バプテスト同盟／日本バプテスト連盟日韓・在日連帯特別委員会／日本バプテスト連盟部落問題特別委員会／日本YWCA／神戸学生青年センター／部落問題に取り組むキリスト教連絡会議

（2023 年 6 月現在）

第33回全国キリスト教学校人権教育セミナー 日程

8月16日(水) フィールドワーク	
	A：明治大学平和教育登戸研究所資料館 B：歩いて考える関東大震災虐殺事件 C：多文化共生の街・川崎桜本・池上町からの問いかけーヘイトから共生への道筋をたどる D：高麗博物館／文化センターアリラン E：皮革の街の部落差別をなくす教育・啓発に学ぶ
8月17日(木) 青山学院短期大学礼拝堂 【ハイブリッド】	
8：30～	受付
9：00～9：30	開会礼拝：安倍愛樹さん
9：30～10：00	基調報告／オリエンテーション：佐原光児さん
10：00～10：10	休憩
10：10～12：10	講演：片岡輝美さん
12：10～	昼食（各自）
13：30～15：15	聖書研究：工藤万里江さん
15：20～16：30	分科会紹介／参加者紹介・交流会
16：30～17：00	会員総会
8月18日(金) 日本キリスト教会館	
9：00～	受付（1階入口 ロビー）
9：30～12：00	分科会≪対面≫ ①困難を抱える子どもに寄り添う ②尊厳教育ワークショップ ③子どもの人権を守る性教育 ④部落差別をなくす部落問題学習入門 ⑤性の多様性～子どもの声を聴かせてもらおう～ 分科会≪オンライン≫ ⑥ビジュアルが語る女性像と社会的影響を考えるージェンダー教育の推進のために ⑦外国ルーツの子どもたちと多文化教育の課題 ⑧琉球弧（沖縄・南西諸島）の危機
12：00～	昼食（各自）
13：30～14：25	分かち合い 対面／オンライン別
14：30～15：30	派遣礼拝：弘田しずえさん（ハイブリッド）
15：30	終了

プログラム内容

8月16日(水) フィールドワーク(事前申込のみ。当日参加はできません。)

A：明治大学平和教育登戸研究所資料館(定員10名)

案内者：山田 朗さん(上記資料館館長・明治大学教員)

集合場所：小田急線「生田」(いくた)駅改札口

*新宿駅から小田急線で快速急行に乗り、登戸で各駅停車に乗り換え生田下車

集合時刻：13:00 現地解散 16:00 予定

参加費：1000円

同研究所は1937年、東京市にあった旧陸軍の科学研究所の一部が現在地に移転してできた登戸実験場が前身です。風船爆弾や化学兵器作成のための実験場でした。旧陸軍は敗戦時に証拠を隠滅し、関係者は長く口を閉ざしました。80年代から実態を明らかにする活動が盛んになり、2010年に資料館が開設されました。戦時中に同研究所で行われた細菌兵器や偽札、スパイが使う毒薬などの研究は「軍・産・学共同の典型的事例」でした。軍学共同の行方が心配される昨今、資料を元に兵器製造や時代背景について山田館長に語っていただきます。

B：歩いて考える関東大震災虐殺事件(定員10名)

案内者：西崎雅夫さん(一般社団法人 ほうせんか理事)

集合場所：「八広」(やひろ)駅 *京成電鉄押上線/地下鉄「日本橋」駅から都営浅草線で17分

集合時刻：10:00 終了予定 17:00 JR亀戸駅解散

参加費：2500円(昼食持参、移動交通費400円各自負担)

1923年、関東大震災の大混乱のなかで朝鮮人・中国人が虐殺されました。それから100年、今もって真相究明と被害者への補償がなされないまま、その歴史を否定しようとする動きが加速されています。さらに今、マイノリティに対するヘイトクライムが頻発しています。1982年「朝鮮人の遺骨を発掘し慰霊する会」発足から、現場を訪ね膨大な資料から歴史の真実を追求されてきた西崎雅夫さんを講師として、歴史現場を歩きながら、100年前の被害者と日本人の証言に耳を傾け、それを子どもたちにどう伝えるのかを考えます。八広駅近くの「ほうせんか」事務所で講義⇒韓国・朝鮮人殉難者追悼碑/旧四ツ木橋/横網町公園/旧御蔵橋/旧亀戸警察署跡の歴史現場⇒地域センターで分かち合い。*炎天下の移動になるため日傘・水筒、そして昼食を持参してください。

C：多文化共生の街・川崎桜本・池上町からの問いかけ—ヘイトから共生への道筋をたどる (定員15名)

講師：山田貴夫さん(ヘイトスピーチを許さない川崎市民ネットワーク代表)

案内者(講師)：三浦和人さん(社会福祉法人 青丘社理事長)

集合場所：在日大韓基督教教会 川崎教会3F(神奈川県川崎市川崎区桜本1-8-22)

*JR川崎駅から7番乗り場、臨港バス大師行(川23)桜本下車(約12分、徒歩3分)

ホームページ MAP <https://www.kawasaki-church.com/>

集合時刻：13：00 終了予定：17：30（その後オプション交流会あり）

参加費：2000円

発題1「ヘイトの源流・関東大震災におけるジェノサイドと川崎」 講師 山田貴夫さん

発題2「ふれあい館・青丘社と多文化共生」 講師・フィールドワーク案内人 三浦和人さん
桜本・池上町フィールドワーク、オプション交流会（近隣の焼肉店にて 費用は各自負担）

社会福祉法人青丘社は1973年に教会の歩みの中から生まれました。保育園、学童保育、日本語教室、障がい者、高齢者支援事業など、在日コリアンを始めとする外国人市民の多住地域で日本人との共生をめざす総合的な事業を展開しています。昨今、この地域はヘイトスピーチのターゲットともなり、川崎市は全国に先駆け、2019年にヘイトスピーチ禁止条例を制定しました。ヘイトと共生が対峙する街、川崎桜本・池上町からの声に耳を傾けていきたいと思えます。

D：高麗博物館/文化センター・アリランの取り組みに学ぶ（定員10名）

案内者：岩元修一さん（高麗博物館理事）

李正守さん（文化センター・アリラン事務職員）

集合場所：JR「新大久保」駅 改札外

集合時刻：13：00 終了予定17：00「新大久保」駅解散（その後オプション交流会あり）

参加費：1300円

高麗博物館は、市民によって設立され、市民が運営する日本と韓国交流の歴史博物館です。訪問時の企画展は「関東大震災100年～隠蔽された朝鮮人虐殺」。文化センター・アリランは、韓国・朝鮮と日本を結ぶ図書館で、同じく市民によって支えられています。この2か所を見学しながら、人権教育の課題について考えましょう。見学の最後に分かち合いの時間を過ごします。

E：皮革の街の部落差別をなくす教育・啓発に学ぶ（定員10名）

現地講師：岩田明夫さん（東京都同和教育研究協議会元会長/木下川資料運営委員会）

藤本忠義さん（部落解放同盟東京都連合会墨田支部書記長）

集合場所：「八広」駅 改札 *京成電鉄押上線/地下鉄「日本橋」駅から都営浅草線で17分

集合時刻：10：00 15：30 解散

研修場所：産業・教育資料室きねがわ 10：30～

参加費：2000円（昼食は各自弁当をご持参ください。）

資料室は小学生や教育関係者など年間3000人が来場。地域イベント・スタンプラリーはTBSラジオの人権TODAYでも放送。部落解放同盟墨田支部や展示室の皮革の街の教育・啓発から部落差別をなくす学校教育を考える機会にします。部落問題学習の分科会参加者の参加を推奨します。

- ①「木下川地区の産業と同和教育」
- ②ビデオ「木下川の皮革工場をみる一皮を革に変える」
- ③「皮革の街・フィールドワーク」
- ④「資料室展示見学」
- ⑤「木下川の部落解放運動と部落差別」
- ⑥感想・懇談

8月17日(木) (会場は、渋谷の【青山学院短期大学礼拝堂】)

■ **開会礼拝** 安倍愛樹さん(実行委員会事務局長/日本基督教団久我山教会牧師)

学生時代にキリスト教教育を学びNCC 教育部協力幹事をしていた時代に全キリ(全国キリスト教学校人権教育研究協議会)に出会い、その後も多くの教育現場で働いてこられました。教育・人権の視点から聖書を読み続けてきた経験からメッセージをいただきます。

■ **基調報告** 佐原光児さん(実行委員会委員長/桜美林大学チャプレン)

昨年のセミナーから1年間をふり返り、人権教育の現状と課題、今回のセミナーをどのように準備してきたか、そしてどのようなセミナーをめざすのか、実行委員会から報告します。

■ **講演**

「私のあとに続くいのちのために～福島からのメッセージ」

講師：片岡輝美さん(会津放射能情報センター代表/これ以上海を汚すな！市民会議メンバー)

2011年3月、東京電力福島第一原子力発電所の暴走により、東日本は壊滅の危機に晒されました。12年経た今も廃炉の目途は立たず、危機的な状況が明らかになっています。しかし、福島核災害から何も学ばないこの国は原発回帰の大転換を目論み、教育現場を使って「処理水」の安心安全論を流布し、放射能汚染水の海洋投棄を強行しようとしています。国の説明を何の疑いもなく受け入れる高校生がいる一方で、昨年私が招かれたキリスト教主義小学校では、福島の現状報告を聞いた児童から核心を突く質問が次々と出てきました。その姿に平和・人権教育の重要性を改めて痛感しました。福島原発核事故は取り返しの付かない環境汚染を引き起こしました。しかし中でも、いのちは成長していきます。私たち大人が為すべきことは何でしょうか。みなさんと共に考えたいと願っております。

■ **聖書研究**

講師：工藤万里江さん(立教大学ほか非常勤講師)

21世紀に生きるわたしたちにとって聖書には人権の視点から受け入れがたい箇所が多くあります。さらにそれらが女性差別や性的マイノリティ差別の根拠として使われている現実もあります。だからこそ聖書をどう読み、どう解釈し、どのような視点に立つのかは重要です。わたしたちに刷り込まれた聖書解釈を一旦脇に置き、クイア神学の視点から聖書への向き合い方をご一緒に考えてみましょう。

■ **分科会紹介/参加者紹介**

◇翌日(18日)の各分科会の概要と目標を、各コーディネーターが紹介します。

◇セミナーに参加された方々の自己紹介、1回目の参加者や久しぶりの参加者には長めの自己紹介をしていただきます。

■ **全国キリスト教学校人権教育研究協議会(全キリ)総会**

全国キリスト教学校人権教育セミナーは1990年から始まり、毎年8月のセミナーを継続する中で、1994年に「全国キリスト教学校人権教育研究協議会」を結成しました。以来、現地実行委員会と共に毎夏の全国セミナーを企画・開催しています。総会ではこの1年間の活動報告を受け、これからの取り組

みをみんなで考えてゆきます。セミナー参加者は全キリ会員になりますので、ぜひご出席ください。

8月18日(金) (会場は、西早稲田の【日本キリスト教会館】)

■ 分科会 *①～⑤は対面、⑥～⑧はオンラインです。

① 困難を抱える子どもに寄り添う

コーディネーター：山本秀樹さん(子どもの虐待防止ネットワーク・あいち[CAPNA])

林 誠さん(文楽舎)

発題者：坪井節子さん(弁護士・社会福祉法人カリヨン子どもセンター理事)

私は仲間たちと一緒に、2004年に、日本で初めての民間の子どもシェルター『カリヨン子どもの家』を立ちあげました。今晚、居場所がない子どもたちを緊急で受け入れる民間の子どもシェルターです。その後、自立援助ホーム『カリヨンとびらの家』『カリヨンタヤけ荘』も開設されました。すべての子どもには、人間としての尊厳を守られ安心安全な場所で信頼できるおとなのサポートを得て、自分の人生を生き生きと歩いていく権利があります。いじめ、虐待、犯罪などの困難を抱える子どもから教えられた「人権とは何か」を起点にして、子どもと共に生きるあり方について考えたいと思います。

② 尊厳教育ワークショップ

コーディネーター：佐原光児さん(桜美林大学教員、大学チャプレン)

発題者：ジェフリー・メンセンディークさん(桜美林大学教員、大学チャプレン)

「尊厳」とはいったいなんでしょうか。よく聞く言葉で、漠然としたイメージでしか捉えることがありません。わたしたちはどんな時にこの尊厳を傷つけられ、また人のそれを傷つけるのでしょうか。この分科会では、講師による具体例の提示やお互いの体験の共有によって尊厳を日常生活の中で捉え直していきます。そして他者との共生のために大切な在り方を学んでいきます。

③ 子どもの人権を守る性教育

コーディネーター：井上収之さん(元七生養護学校教員)

発題者：日暮かをるさん(“人間と性”教育研究協議会障害児・者サークル世話人)

「生まれてきて良かったのだろうか？」皆さんは子どもたちの胸にあるこの問いに、どのように答えますか？ 厳しい家庭環境で育ち、施設で暮らす知的障害を持つ七生の子たちは、言葉で言い表せない思いを心の底から全身で先生たちに問いかけます。「私を好き？ 先生をどこまで信じていいの？」この問いを正面から受け止め、全校で取り組んだのが「こころとからだの学習」(性教育)でした。「あなたたちは、一人一人が大事な存在。私たちは見守り続けるよ！応援するよ！」20年前にこの教育は一部都議と都教委が介入して壊されましたが(七生事件)、法廷で粘り強くたたかい10年前に勝訴することができました。この分科会では、七生の実践と裁判の中心にいた日暮さんの発題を受け、子どもの権利を守る教育とは何かを、参加者みんなでじっくり語り合いたいと思っています。

④ 部落差別をなくす部落問題学習入門

コーディネーター：水野松男さん(NCC 部落差別問題委員会)

片桐健司さん(NCC 部落差別問題委員会)

発題者：上野玲奈さん（部落解放センター主事／同志社香里高等学校非常勤講師）

「いばらの冠」の教案作成・模擬授業

水野松男さん（NCC 部落差別問題委員会／小学校特別支援学級支援員）

部落問題学習のポイント

分科会では 16 日の FW・E コースの参加を前提に、キリスト教 部落問題・人権教育テキスト「いばらの冠」の活用を素材とし、キリスト教学校での部落問題学習の推進を課題とします。上野さんの教案作成や模擬授業から学校で可能な教育実践を考えます。また、水野さんの部落問題学習のポイントでは、被差別部落とは何か、部落差別とはどのような差別か、明治以降の内務省の改善事業や融和事業による部落差別の拡散、1965 年の同和対策審議会答申の「同和問題の本質」の部落低位論の弊害、こうした状況を克服する部落認識の刷新と部落差別をなくす学習課題を考えます。

⑤ 性の多様性～子どもの声を聴かせてもらおう～

コーディネーター：清水祥子さん（社会保険労務士）・赤嶺容子さん（元家庭裁判所調停委員）

発題者：遠藤まめたさん（一般社団法人にじす代表）

性の多様性は、いろいろな形で社会を変えつつあります。2024 年春から使われる小学校の教科書では、保健体育・道徳・社会などで性の多様性の記述が大幅に増えることになりました。制服や体操服を選択制とする学校も増えています。しかし、まだ私たちは子どもたちの声に出せない困りごとに気づけないことがあります。気づいても何をしたらよいか分からないかもしれません。この分科会では子どもたちの居場所づくりに取り組む遠藤さんから多様な性のありようをもつ子どもたちの現状を聞き、学校や教会でどのような支援ができるか、はじめの一步を考える機会にしましょう。

⑥ ビジュアルが語る女性像と社会的影響を考える—ジェンダー教育の推進のために [オンライン]

コーディネーター：大嶋果織さん（大学教員）

発題者：大藪順子（おおやぶのぶこ）さん（フォトジャーナリスト）

私たちは毎日、メディアを通して夥しい数の静止画像や動画を目にしています。漫画やアニメ、広告やアート、写真や絵…。そこにはどんな女性像が現れているのでしょうか。日本とアメリカを行き来しながらフォトジャーナリストとして活動し、性差別や性暴力の問題に積極的に発言している大藪順子さんが、日米を比較し、事例をあげながら、ビジュアルの社会的影響についてお話してくださいませ。性別による固定的イメージを超えて、ジェンダー平等を実現していくために、教育は何ができるのか、何をすべきなのか、一緒に考えましょう。

⑦ 外国ルーツの子どもたちと多文化教育の課題 [オンライン]

コーディネーター：佐藤信行さん（在日韓国人問題研究所）

発題：① 移民社会の中のカラフルな仲間たち : 佐藤信行さん（外キ協）

② 冊子『からふるな仲間たち』の活用実践例：李明生さん（NCC 在日外国人の人権委員会）

③ キリスト教学校の人権教育の課題 : 渡邊さゆりさん（CMIM）

2017 年から、外国人住民基本法の制定を求める全国キリスト教連絡協議会（外キ協）・日本キリスト教協議会（NCC）在日外国人の人権委員会・マイノリティ宣教センター（CMIM）の共催で「からふるカフェ」を始めました。そこで話してくれた外国にルーツをもつ 16 人のマイストーリーを、漫画家み

なみななさんに各3ページの漫画にしてもらい、さらに中高生向きに1ページずつ解説を付けて、計20ページの冊子『からふるな仲間たち』を第四集まで発行しました。これをテキストにして、外国につながる子どもたちの現状と多文化教育の課題について一緒に考えていきます。

⑧ 琉球弧（沖縄・南西諸島）の危機 [オンライン]

コーディネーター：比企敦子さん（日本キリスト教協議会[NCC]教育部）

発題者：坂口聖子さん（日本キリスト教団宮古島教会牧師）

沖縄の辺野古基地建設問題については報道されていますが、琉球弧（南西諸島）の島々には自衛隊のミサイル基地が建設されています。たった2、3年の間に基地建設が進み、すでに稼働している事実は日本ではあまり報道されていません。「台湾有事」を前提とし、琉球弧の島々の人々は再び戦争に巻き込まれる可能性もあります。南西諸島の抱える問題を「知る」ということで日本のこれからの未来を共に考えていきましょう。宮古島からの発題を伺い、決して「日本有事」にさせないという決意を新たにしたいと思います。

■ 分かち合い

このセミナーに参加して感じ考えたこと、各分科会で提起された課題、疑問や問いかけ、今後への思いなどを語り合い共有します。

■ 派遣礼拝 [ハイブリッド]

弘田しずえさん（ベリス・メルセス宣教修道女会／カトリック正義と平和協議会専門委員）

本当のセミナーはこの3日間のプログラム終了後、それぞれの場所で始まります。あなたのセミナーが、ここで出会った豊かなつながりの中で営まれますように。主イエスから派遣され、希望をもって現場へ出て行きましょう。長年マイノリティと共に人権獲得に取り組んできた弘田さんから、確かな励ましを与えられることでしょう。

.....
「全キリ グラウンド・ルール」とは、「人権教育セミナー」に参加されるすべての方たちが、セミナー中や終了後も不快な思いをせずに気持ちよく過ごすための基本的な約束事です。セミナープログラムはもとより、協議会の総会の進め方などにも適用される内容です。
(2009年8月6日発足、2015年8月17日改訂、2019年8月6日改訂、2021年6月オンライン版作成)

全キリ グラウンド・ルール

初めて参加される方への配慮と共に、以下の点についてどうぞ協力ください。

1. 無理のない範囲で、積極的に参加なさってください。
 - ・お互いのペースや、うちとけ方を尊重しましょう。
 - ・参加者が自由に話せるように、お互いに耳を傾けましょう。
 - ・話したくないことは話さなくてかまいません。

2. 守秘義務を守ってください。
 - ・セミナーで見聞きした個人情報は、その場のみにとどめてください。名前・所属・写真・事例など

を、本人の許可なく他者に漏らすことは「アウトティング」となり許されません。

- ・いまインターネットではマイノリティに対する不当なスピーチがまん延しています。SNSをはじめ、ソーシャルメディアへの安易な投稿は避けてください。
- ・セミナー報告を他の媒体に掲載する際、とくにマイノリティ当事者が講師の場合、必ず本人の了解をとって報告記事をまとめるようにしてください。

3. セミナーにはさまざまな参加者がおられます。

- ・参加者の中には、自分とは異なる生活スタイル・価値観・問題をもっている人がいることを理解しましょう。
- ・自分の国籍・セクシュアリティ・経済的状況・職場の状況などを話したいとは限りません。
- ・批判し、話し合いを深めることは大切です。しかし互いに尊重し合い、人格を否定するような言動はしないよう心掛けましょう。
- ・セミナーの目的からかけ離れた個人的な宣伝はご遠慮ください。

4. 言葉による暴力・セクハラ・パワハラは厳禁です。

- ・たとえ怒りなどの感情をもつことがあったとしても、それを他の参加者に向けて攻撃したりしないようお願いします。
- ・相手や当事者が不快に思う言動は、ハラスメントです。私たちは誰でも両当事者となり得ることを心に留めましょう。
- ・セミナー中にハラスメントと思われる言動を見聞きした場合、可能ならばその場で注意を喚起するとともに、実行委員会にお知らせください。実行委員会・運営委員会が必要な対応をします。

5. セミナー中は、携帯電話をマナーモードに切り替え、他の方々の迷惑にならないようお願いします。

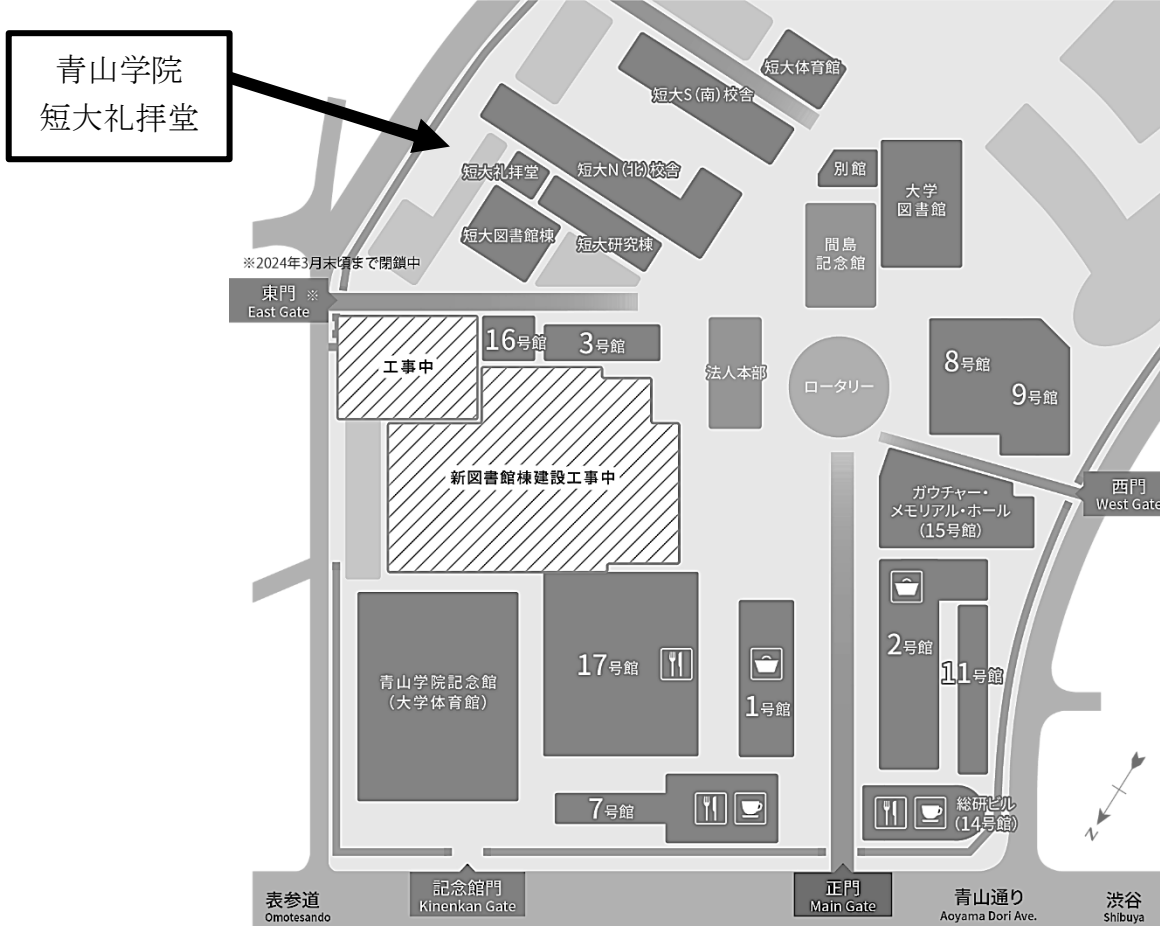
6. オンラインで参加するみなさんへのお願いとご注意

- ・正規の手段以外でミーティングIDや招待URLを入手した方の参加は固くお断りいたします。
- ・お互いの顔が見えるように、カメラは原則「ON」にしてください。
- ・発言される時以外は「ミュート」にしてください。
- ・個人での録画、録音、スクリーンショット等の撮影はご遠慮ください。主催者側が必要に応じて録画などの記録をとります。
- ・差し障りのない限り、画面には参加申込時の名前を表示してください。（正規の参加者と、そうでない方を判別するためです。）
- ・参加者用リンクは、申込をされた方だけにお送りしています。他の方には公開なさないでください。
- ・ZOOMの利用自体は無料ですが、参加や資料のダウンロードに関わる通信料などは各自の負担になります。スマホなどの料金プランによっては月の利用枠を使い切ってしまう可能性や、別途料金がかかる場合があります。ご自身でお確かめの上、ご参加ください。

(NPO法人ぶれいす東京編集・発行の「グランド・ルール」他を参考にさせていただきました。)

• 17日＝【青山学院短期大学礼拝堂】（東京都渋谷区渋谷 4-4-25）

*最寄駅等は p. 2 をご覧ください。下記は青山学院内地図。渋谷駅からは右下「青山通り」の渋谷方面から。



• 18日＝【日本キリスト教会館】（東京都新宿区西早稲田 2-3-18）

*最寄駅等は p. 2 をご覧ください。

